

令和3年度第1回富士見市いじめのない学校づくり委員会
会議録要旨

【日時】 令和3年6月18日（金） 14:00～16:30

【開催場所】 富士見市教育委員会 会議室

【出欠状況】

小林	塚田	長堀	忽滑谷	森田
○	○	○	—	○

【事務局】

課長 教育相談室長 指導主事1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
(1) 令和3年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
- 5 議 題
(1) ネットによる誹謗中傷やいじめの原因とその解決策について
(2) コロナ禍における不登校対策について
- 6 事務連絡
・今年度の会議日程について
- 7 閉 会（副委員長）

【議事】

(1) ネットによる誹謗中傷やいじめの原因とその解決策について

- 【事務局】 令和2年度の生徒指導・問題行動等の調査結果によると、いじめの原因で「携帯電話等で、誹謗・中傷」という項目に、小学校で14件、中学校で10件あった。数字的には少ないが、昨今のニュースで自殺まで追い込まれてしまったケースも見受けられる。今後、ネットでのコミュニケーションがますます増えてくる中で、どのようなことに気を付けることがネットいじめを防ぐことになるのか、またそれを未然に防いでいくにはどのように学校が働きかけていく必要があるか、委員の皆様にご意見を伺いたい。
- 【委員】 今の時代の子どもたちはコミュニケーションの取り方があまり上手ではなく、LINE等のSNSでも誤解を生じるケースが多い。
- 【委員】 文字情報だけでは情報量が足りず、誤解を生みやすいが、それを理解して使えていないのではないか。
- 【委員】 学校で起こるトラブルも、実際にちょっとした文字情報のやり取りの行き違いから生まれるケースが多い。
- 【委員】 小学生の高学年や中学生のスマホなどの携帯電話の使用率が増え、子どもだけの世界が広がっている。そこに大人が介入するのはとても難しい。
- 【委員】 ネット上でトラブルが起きても、なかなか子どもが大人に相談できない。大きなトラブルになって初めて問題が表面してくる。
- 【事務局】 ネットによるいじめやネット上のトラブルを防ぐために、大人として、学校として、具体的に何ができるのか。
- 【委員】 大人も子どもたちに一方的に「ダメ」というだけでなく、ネットやゲームに夢中になる理由を理解する。お互いに共感することで、その気持ちも理解でき、解決策についても考えられるのではないか。
- 【委員】 学校では実施しているかと思うが、継続的にアンケートを取って、子どもたちの気持ちも把握しておく必要があるのではないか。ネットの怖さも一方的に指導するだけでなく、事例をあげるなどしてその怖さを身をもって知ってもらう必要があるのではないか。

(2) コロナ禍における不登校対策について

- 【事務局】 令和2年度の生徒指導・問題行動等の調査によると、90日以上欠席した不登校児童生徒が増加の傾向にある。また、特に小学校で増加している傾向にある。コロナ禍における不登校対策について、どんなことができるのか、またどんな対策がとれるのか、ご意見を伺いたい。
- 【委員】 不登校の原因についてはいろいろなケースが考えられるが、コロナ禍で保護者がストレスを溜め、それが子どものストレスにつながっているケースが見られる。
- 【委員】 家庭でのフラストレーションが溜まり、子どもたちがSOSを発するケースがある。
- 【委員】 休校があり、授業の進度が早まった結果、それに対応できずに、うまく立ち回れない子どもたちのストレスもあるのではないかな。
- 【委員】 行事などが思い通りに実施されず、思い描いた学校生活が送れずに思い悩む子どもたちも少なからずいる。
- 【委員】 小学校で暴力件数が増えているのも、そうしたストレスとの関係もあるのではないかな。
- 【事務局】 学校としてどのように対応していくべきか。
- 【委員】 コミュニケーションの取り方がうまくいかないために、人間関係がうまくいかないケースも多い。コミュニケーションの取り方を丁寧に教えていく必要があるのではないかな。
- 【委員】 行事等も簡単に中止にせずに、実施形態を変えてでも可能な限り実施をしていくべきではないかな。
- 【事務局】 不登校対策は本市においても重要な課題である。生徒指導訪問や生徒指導主任研修会等でその対策についても十分に話し合っていきたい。